人間が多すぎるということ

九大講師　小島恒久

社会講座（31）

一

あちこちの研究会にでて社会主義の話などするとき、よくうける質問にこういうのがある。「社会主義社会は結構な社会だと思うけど、ただ日本のように人間が多すぎて、過剰人口という問題をつねにかかえている国では、過剰人口がつねにつきまとうて、社会主義もうまくゆかないのではないか？」

この疑問は、せまい国土に多くの人間がひしめきあい、貧しい生活をおくっている現実を目の前にすると、いかにももっともらしく思われる疑問である。

しかし、人口の問題はそのように固定的に考えられてはならない人口問題はつねに社会制度との関連においてとらえられるべきである。抽象的な、いかなる社会にも妥当するような人口法則といったものは存在しない。われわれの目の前にしている過剰人口は資本主義社会の人口法則であって、それをただちに社会主義社会にあてはめてはならない。

二

歴史のうえでおのおのの社会はそれぞれの人口法則をもっているたとえば徳川時代の人口をみてみよう。幕府がはじめて全国的な人口調査をやったのは享保六年（一七二一年）であるが、それ以来幕末までの百数十年のあいだ、日本の人口は大体三千万前後を上下してほとんどかわることがなかった。

封建社会の生産力の低さと支配階級による搾取の厳しさとが、それ以上人口のふえることを許さなかったのである。でもほっておいたのでは人口がふえる。ふえては食ってゆけない。やむなく人々は間引をおこなった。間引とは堕胎と生児圧殺をさす言葉である。ことに農村では圧殺が多くおこなわれた。このことは封建社会の民衆の生活がいかに惨めなものであったかを物語っている。

享保以後人口がふえなかったのは、飢饉や伝染病といったことのほかに、こうした間引による人口制限が重要な因をなしているのである。

三

ところが、明治以後日本の人口は急速にふえた。資本主義の発展にともなう生産力の増大が、こうした人口の増加を可能にしたのである。

しかし、人口問題はこれで解決されたのかといえばそうではなかった。資本主義はまた資本主義で過剰人口の厚い壁にたちまちぶつからざるをえなかった。その原因はこうである。

資本主義が発展するにつれて技術はすすみ、生産規模はますます拡大する。だが、そうした資本の増大の場合もっとも多くふえる部分は、物的生産手段に投ぜられるが、すこしでも不景気になると職にあぶれる。しかも注意すべきなのは、こんにちの段階では、景気のよいときでもなお職につけない失業者が沢山いるということである。

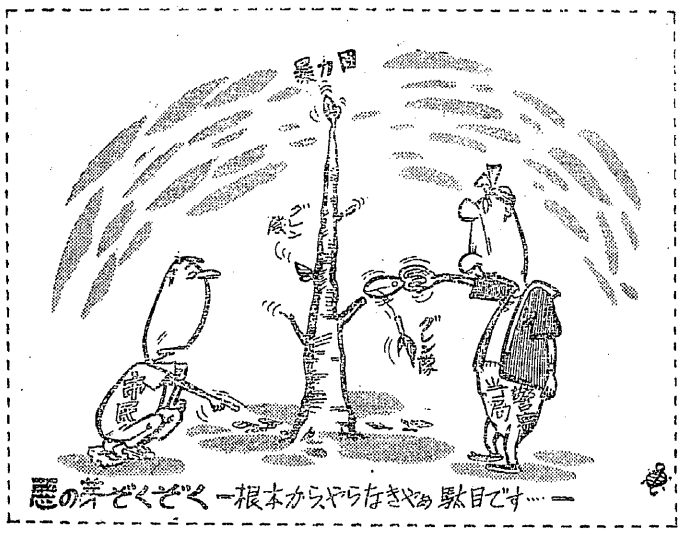
さきの神武以来の好景気といわれた時期でさえ日本には五十万をこす完全失業者がいたといわれているのである。この失業者の存在は失業者自身にとって不幸なことはいうまでもない。だがそれだけにとどまらず、そのように多くの失業者がいるということは、現に職についている労働者の立場を弱くし、賃上げ要求の足を下からひっぱる作用をもつ。

しかも資本主義社会はこうした過剰人口問題を解決する能力を欠いている。それどころか、資本家は過剰人口の存在を自らの利益や対労働者政策のためにむしろよろこんでさえいるのである。

四

こんにち遅せられている生産力の高さからすれば、現に存在する人口をまかなえないずはない。だのに、生産が資本家の利潤のためにおこなわれ、分配がいちじるしく不平等だということのゆえに多くの過剰人口に苦しまねばならない。資本主義生産の仕組のゆえに物が過剰であるとき、もっとも多くの人が職にあぶれ、物の欠乏に苦しまねばならないという皮肉な現象が出現するのである。社会制度そのものがかわり、労働者自身の社会になればこうした馬鹿げた現象はなくなる。そこで遅せられた生産力の高さは、そのまま労働者の利益となり、より多くの人口を養えることになる。

人間が多すぎるといった問題はまさに社会制度との関連において論じられなければならない。資本主義という仕組からきている相対的過剰人口の問題をそのまま社会主義社会にあてはめてはいけない



共闘全国に拡がる
教組つぎつぎに実力行使

全国でいま大きな問題となっている勤務評定。政府と自民党と各都道府県の教育委員会は、警官隊まで動員して、たとえ血を流してでもやってみせるといきり立っています。一方、先生たちは父兄や学生、労働組合、平和団体などと手をつないで、警官のコン棒にもひるまず、これをくい止めようと必死になって闘いに立上っています。

警官までも動員

一口に勤務評定とは「先生の通信簿だ」といわれています。しかしそんな生やさしいものではありません。校長や教育委員の好ききらいでつけられることが大きな問題です。こうなれば、みんなが校長や教育委員の顔いろばかりうかがい、いいたいこともいわず、やりたいこともやれないことになり、その結果は暗い教室、魂のぬけた教育になるおそれが大きいのです。

政府や自民党はだんだん勤務評定の実体がバクロされてきて、いいぬけがきかなくなると「法律できめられているのだから当然実施すべきである」と居ちをおってきました。しかし教育という仕事にこんな基準はいままでつくられたことはありませんし、これからもつくれるはずのものではありません。先生たち、そして先生たちと手をつないだ父兄や労働組合や学者、文化人が真剣になって、勤務評定に反対しているのは、決して自さきの獲得のためではないのです。もし勤務評定の問題で一歩ゆずってしまえば、政府も自民党も教育や文化のいろんな問題についてはもちろん、国民生活のあらゆる方面にさらに追うちをかけてきて、彼らの支配をかためようとするでしょう。

和歌山闘争に刺戟

和歌山、高知をはじめ、ほとんど西日本全域をふくめて激しい攻防戦がくりひろげられています。とくにあらたな前進をかちとるうえで大きな役割りをはたしたのは和歌山の闘いでした。和歌山の八者共闘の結成と発展は、父兄、県民を勤務評定反対の立場に結集するうえで決定的な役割りをはたしています。

愛媛から東京、福岡、さらに和歌山、高知と闘いは発展し、政府・自民党の総力をあげての攻撃にためらうことなく、日教組の闘いは組織の最大限の力、十割休暇闘争で闘かわねばならぬという意識を組合員のなかにつくりあげるとともに、各県における、労働者を中心とした勤務評定反対、平和と民主主義と教育をまもる共闘会議の組織化という、注目すべき成果をあげています。

父兄も立上る

和歌山にひきつづき十割休暇闘争に入った高知は、直接和歌山にはげまされ、連帯の行動をとった。よわいといわれる奈良でも和歌山の闘いが影響しはじめ、奈良でもやろうと各地で活動家集団ができつつある。六月下旬にひらかれた長崎県教組の大会では、教組が二割休暇闘争に入ろうとする直前、執行部が県教育委と妥結、闘争を中止させたことについて、代議員からはげしく追及され、大会は満場一致、こんご強力な勤務評定反対闘争を展開することを決議しました。

日教組大会できめられた七月上旬の闘いの火ぶたは大阪、兵庫の実力行使を先頭にきっておとされました。大阪は九日から三日間、兵庫は七日から五日間闘いに入ります。北海道は七月十日午後一時から授業を打切り、職場集会をひらき闘いへの前進をめざして組合員の団結を一そうかためました。高知では六日、全県代表者会議をひらき、第二波の実力行使をきめました。

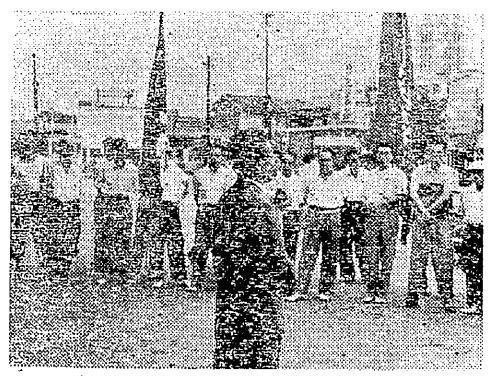
厚児島では、県教委の一方的な規則制定にたいして闘いをはじめました。九州の他の県では厚児島に呼応して闘う体制をとっています。とくに福岡は、十割休暇闘争をしたという理由でうけた賃金カットを撤回させるという闘いをおこし、勤務評定規則撤回の団交をひらけと要求して、七月八日には一せい早退に入っています。

大地評はリボン闘争

日教組はきたる二十七日に東京で休会あけの大会をひらき、あたらしい執行部をえらぶ。つづいて二十八日には臨時大会をひらき、九月にむけて勤務評定反対闘争を、校長にたいする管理職手当の支給反対、教育課程の改悪反対、教育委員会の公選制の回復などの闘いと結合して、さらに強化する方針を討議します。

日教組は総評と力をあわせて八月十五日、和歌山で勤務評定反対、民主教育をまもる国民大会を十万人の動員でひらこうとしています。勤務評定の問題はけっして先生だけの問題ではありません。これに反対する闘いは、国民の生活と権利、平和と民主主義をまもるという大きな意義があることを忘れてはならないでしょう。

大牟田の地区勤務評定反対共闘会議は十日から闘争の巾をひろげるため、傘下組合員がリボン闘争をおこすことになった。黄色いリボンに「勤務評定に反対しましょう」と書いたリボンを胸につけ、闘争は今月いっぱいつづけられますなおリボン闘争のほか数日中に街頭署名運動にも進出して、積極的な闘争をおしひろめることになっています。



小宮氏出発
ストックホルム大会へ

七月十六日からストックホルムでひらかれる「軍縮と国際協力のための世界大会」に、大牟田からは社会党県連の小宮市太郎氏が出席した。

この大会に出席する日本代表は四十二名である。

小宮氏は七日十二時四十二分の西鉄急行電車で出発したが、駅頭には各単産代表が組合旗をふって見送り、全員スクラムを組んで「幸せのうた」を合唱、激励をおくった。（写真、駅頭での見送り）

福岡市向け
平和行進
20日に県民大会ひらく

第四回原水爆禁止世界大会をめざして、六月二十日広島の爆心地を出発し一千キロ平和行進は、十一日大阪を通過、東海道を上っている。行進はつねに五、六十人から多いときは三百人ぐらいが参加しているが、この行進は沿道に非常な反響を呼んでいる。行進隊の先頭には「核武装阻止と民主主義擁護のため」というプラカードが立てられている。

日本原水協と平和委員会では、この行進をひろめるために、二十日に各県の県庁所在地で核武装阻止と民主主義擁護のための県民大会をひらくことを計画、県内のスミズミから、一千キロの平和行進とタイアップしておこなうことにした。

福岡県では県原水協と平和委員会が話合った結果、四コースにわけて福岡市めざして行進、大会をひらくことになった。

たとえ五歩でも十歩でもよいから全県民がこの行進に参加するよう呼びかけている。

四コースは、起点が直方、田川、門司、大牟田の各市で(1)直方―飯塚―福岡、(2)田川―飯塚―福岡、(3)門司―小倉―八幡―折尾―福岡(4)大牟田―久留米―福岡の各コースである。

行進は十八日から開始、二十日に福岡市に結集し、午後三時から福岡市舞鶴中学校々庭で核武装阻止と民主主義擁護のための県民大会をひらく。

なお大牟田隊は午前八時市役所前を出発するが、組合員の多数の参加がのぞまれている。ただ、終点福岡市までの長距離参加者は、宿泊などの都合のため、十六日までに大地評や市会事務局に申込むこと。

山本経勝氏死去
12日社党、炭労で合同葬

七月八日午前九時十分ごろ東京参議院宿舎で参議院議員山本経勝氏（五三）は脳出血のため死去された。去る三十一年七月におこなわれた参議員選挙に、われわれは組織として全国区から阿部竹松、福岡県地方区から山本経勝の両氏をおし政治中闘としておくりこんだ。とくに山本参議は、阿具根参議とともにけい眼法の改正や炭鉱災害のために、院内では活ぱつな活動をおこなってきて、こんどに期待がかけられていたときだけに、その死去は非常に惜しまれている。

山本参議は日炭高松の出身で、青年時代から日労党、大衆党と社会運動にていしんし、上海事変にさいし帝国主義侵略戦争に反対したという理由で、治安維持法違反に連座して懲役四年執行。昭和十四年日炭高松一坑の採炭夫となり、昭和二十年日炭高松労組結成いらいつねに指導的位置にあって、福炭労事務局長をへて、九州炭労委員長に就任、昭和三十年三月の参議員補選に出馬し当選、つづいて三十一年七月に地方区から再選した。

遺骨は十一日福岡にうつされ、社会党と炭労の合同葬として、十二日午後四時福岡市大学通り松源寺でしめやかにとりおこなわれた。

21日から総評大会

総評第十回大会は、七月二十一日から四日間東京神田の九段会館でひらかれる。すでに発表された運動方針案は、(1)われわれはいかに闘ったか（自己批判）(2)闘いをとりまく情勢(3)主要闘争目標と方向(4)闘争態勢の強化……の四部からなっている。

生産性向上運動に反対し、賃上げ最賃制、時間短縮、勤務評定、弾圧反対などの闘い目標とし、(1)労働組合の団結と連帯性の強化(2)失業者、下積み労働者の組織化と闘争援助(3)農、漁民、中小商工業者らとの提携強化に運動の重点をおいている。

大会がはたして、そのおかれている位置の重大さにふさわしい実りゆたかな討議の結論をみちびきだせるかどうか。それは一にかかって、さきの日教組の山形大会におけるような、有害無益な派閥抗争でなく、お互いに率直にこうした問題点の検討をふかめなければならないだろう。

【国会便り】

口べた論争

▽…六月二十六日参院社会労働委員会で所信をただされた倉石労組立板に水をながす名調子でじゅんじゅんと生産性向上の必要性を説いたあと「社会党のかんがえ方と結果においてまったく合致するがなにしろ言葉がへたなので」とニヤリ。

「あなたは言葉がうますぎて、合致しないものまで合致させているんだ」と前置きして質問に立った阿具根登氏（社）は、これまた名調子で失業対策の最重要性を説いたあと「理想論でなく、もっと失業者吸収に熱意をしめしてもらいたい。私は言葉がへたで十分いつくせないが」とニヤリ。

このキツネとタヌキのかけあいのようなやりとりに満場大笑い（二十七日、日経新聞より）。